

未来の地域社会へ

地域社会が発展するために、イオンモールが果たすべき役割は何なのか。理想の地域社会とは何なのか。イオン太田SCが2003年12月にオープンした太田市で、「行政はサービス業」とおっしゃる清水市長をイオンモール社長の川戸が訪問し、語り合いました。



SCは地域発展の起爆剤

イオンモール株式会社
代表取締役社長

川戸義晴

新しい市の中心に、 活性の起爆剤として存在。

清水：イオン太田SCがある場所は、古墳群や大学があって、大きな公園もできる。あのあたりを賑わいゾーンとして華やかにしたい、という構想があって、その中核としてSCを位置づけているんです。買い物は文化だと思うんですよ。太田市には時代を象徴するような文化が何もないから、文化をつくりたかったんです。

川戸：もともと太田市は、工業地帯として発展していましたが、商業という面では未発達だった。そういった背景の中で、市長さんの方から誘致いただいて開発に乗り出したわけです。

清水：市町村合併が進んでいますが、あの場所は、今は太田市の端なんだけど、合併して大きな市ができると、その中心になるんですよ。

川戸：子どもはこれまで、商業地域として見向きもされなかったところに、新しい街づくりとしてSCをつくってきました。合併後には新しい市の中心に位置して、地域全体の活性化のための起爆剤として、さらに役立ちたいと思います。

モノではなくコトを楽しむ。 心を豊かにするのが文化。

清水：太田はもともと工業都市で、よく働く人が多いけれども、市内で消費をするという習慣がなかったんですよ。今までは熊谷や東京まで買い物に出かけていたんです。しかしイオン太田SCができて、みんなが市内で買

い物をするようになった。今、何が楽しいって、買い物じゃないですかね。

川戸：普通の生活の中で、非日常を味わってみたいんじゃないでしょうか。ただ単にお買い物を楽しむというよりも、食事ができたり、映画が見られたり。モノだけではなくコトを楽しんでいただける場所がイオンSCなのだと思います。

清水：田舎だとね、ちょっといい服来て出かけていく場所がないの。今、みんな楽しんでいますよ。おしゃれして出かける場所ができたから。

川戸：オープンしてからお客さまの服装が変わったんですよ。そういう場所ができたということが、喜ばれているのではないのでしょうか。

清水：そういうのが文化なんだな。心を豊かにする。だから、SCがあるということは、文化があるということなんですよ。私もあそこに行く時だけは、着るものに気をつかいますからね(笑)。

なくてはならない存在になる。 それが本当の地域貢献。

川戸：企業の地域に対する貢献、という意味では、まず雇用があります。今の雇用情勢から見れば切実な問題だと思うんですね。イオン太田SCでは2,200人ぐらいの従業員が働いておりますが、そのうち1,700人ぐらいは当地で雇用が起きた。2003年8月からの有効求人倍率は、太田市が全国でトップでしたな。

清水：1.35倍でしたからね。

川戸：しかし、本当の意味の地域貢献は、太田になくてはならない存在になる、ということだと思います。子どもは地域産業であり、



人間産業でもありますから、地元の皆さまの豊かな暮らしのお手伝いを、ということが、貢献の最大のポイントではないかと思っています。

清水：存在価値がなくなれば、客足が落ちて売り上げが減ってくる。せっかくつくってもらったんだから、儲けに儲けてもらって、地域に貢献し続けてほしいですね(笑)。それから、私からの願いとしては、子どもたちにイオンの存在を知らせてほしい、ということ。太田にはスポーツ学校、芸術学校があるんですが、そういった子どもたちを育てるための一翼を担ってもらえたら、と思います。

川戸：地域の発展につながる、青少年の健全化につながることは、太田の企業市民として、積極的に協力していきたいと思っています。

サービス業同士、分担して よりよいパートナーに。

川戸：清水市長は行政改革の旗手として有名な方ですが、驚いたのは「行政はサービス業だ」とおっしゃるところですね。

清水：役所に来た人がにこやかに帰ってもらうことが、我々の喜びなんですよ。

川戸：イオン太田SCIには、市役所の行政サービスカウンターに入っています。朝10時から夜8時まで、無休ですから、職員の方は大変だと思うんですが、市長さんは「サー

ビス業だから当たり前だ」とおっしゃってね(笑)。

清水：小売業と同じですよ。我々サービスですからISO9001と14001も取得しました。日本で初めてでしょう、自治体がISOに取り組んだのは。

川戸：サービス業同士ですから、そういう意味でお互いに役割分担ができると思うんですね。行政でできることはやっていただいて、こちらでやった方がいいことは、私どもがやらせていただく。地域の皆さまへのサービスという観点で、それぞれがいちばんいい形で活動できれば、素晴らしい関係になるんじゃないかと思っています。

**理想の地域社会は
人間が動く街。
その一翼をイオンが
担っています。**

清水：我々が理想とする社会は、人間の動く街だと思うんです。ごく自然に、人もモノもお金も動いている街が理想です。イオン太田SCIができて、そういうエネルギーな街をつくるためにちょうどいい状況になりました。

川戸：これからの地域の発展の鍵を握るのは、第三次産業だと思うんです。そういう意味でも、私たちは起爆剤としての役割を果たしていきたいと思っています。

清水：いずれにしても、イオンモールが出店して大正解でしたよ(笑)。

心を豊かにするSCCは文化だ



太田市長

清水聖義氏

昭和16年群馬県太田市生まれ。慶応義塾大学商学部卒業。太田市議会議員、群馬県議会議員を歴任後、平成7年6月太田市長に就任。独自の手法で行政改革に取り組み、全国的に注目を集めている。

※この対談は2004年3月12日に開催したものです。肩書きは全て当時のものです。

イオンモールのおゆみ

1911年 11月	会社設立	1999年 9月	イオン倉敷SC開店
1973年 8月	損害保険代理店事業開始	2000年 3月	イオン成田SC開店
1974年 12月	アメリカンファミリー生命保険株式会社の代理店として 生命保険代理店事業開始	6月	大店立地法施行
1978年 8月	ジャスコパーク株式会社、酒田ショッピングセンター株式 会社合併	9月	イオン岡崎SC開店
1989年 9月	資本金40億に増資	12月	イオン高知SC開店
10月	イオン興産株式会社に社名変更、 新たに大規模ショッピングセンター開発・運営の ディベロッパー事業開始	2001年 4月	環境マネジメントシステム国際規格ISO14001認証取得 (マルチサイト一括方式)
1992年 11月	イオン柏SC開店	6月	イオンモール株式会社に社名変更、イオン新居浜SC開店
1993年 2月	下田タウン株式会社(イオン下田SCディベロッパー)設立	7月	イオン東浦SC開店
9月	イオン秋田SC開店、イオン富津SC開店	12月	イオン大和SC開店
1994年 6月	ハートビル法施行	2002年 7月	株式上場(東証一部)、資本金60億6500万円に増資
1995年 4月	イオン下田SC開店	9月	イオン高岡SC開店
1996年 11月	イオン鈴鹿SC開店	第14回日食・環境資源協力賞受賞	下田タウン株式会社が「2002年度バリアフリー化 推進功労者」として内閣総理大臣表彰を受賞
12月	イオン三光SC開店	2003年 8月	イオン盛岡SC開店
		12月	イオン太田SC開店



「イオンモール2004 笑顔の街づくりレポート」の内容や、
当社の環境保全活動をはじめとする社会貢献活動についてのご質問・ご意見は
下記の環境・社会貢献・ISO事務局へお寄せください。

イオンモール株式会社

環境・社会貢献・ISO事務局

〒261-8539

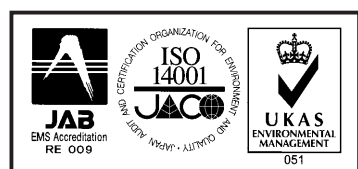
千葉市美浜区中瀬1丁目5番地1 イオンタワー7階

TEL 043-212-6476 FAX 043-212-6736

イオンモールホームページ <http://www.aeon-mall.net>

表紙メッセージ

イオンモールは、2012年に日本全国にショッピングモールを
50SCつくことをめざしています。地域の皆さまとともに、夢と
感動をわかちあうため毎日進化し続けていきます。



イオンモール株式会社は、環境マネジメントの国際規格である
ISO14001をマルチサイト一括方式で2001年4月18日に取得しました。

